

特集

〈事例〉

理事、地域班長、事務局が協力し 記念式典・記念講演を開催

公益社団法人
可児市シルバー人材センター

(岐阜県)

可児市SCは、令和4年10月6日に「設立30周年記念式典・記念講演」を開催した。当日は会員、市民、関係各所から合わせて約900人が来場し、盛大な記念イベントとなった。企画や構成は、理事と事務局で連携して立案し、当日の準備や受付、感染防止対策などは地域班長も協力して取り組んだ。また、広報委員会が中心になって「30周年記念誌 ささえあい」を制作した。

公益社団法人として 地域に開かれた式典を行う

可児市SCは、平成4年1月に社団法人として設立し、平成24年4月に公益社団法人に移行。令和4年1月に設立30周年を迎え、令和4年度に記念事業を実施した。30周年記念事業は、令和3年度から理事会で検討を開始した。当時、新型コロナウイルス感染症が拡大しており、収束の見通しも不明だったが、次のような基本方針を設定した。

公益社団法人は、開かれた法人であることから、30周年という節目は、市民と一緒に祝う記念式典を開催する。記念誌を制作する。

加えて、令和4年度は可児市の市制40周年でもあり、「節目の年を市と共に祝い、新たな10年を見据えて成長していこう」との気持ちを込めて執り行うこととした。

また、記念式典と一緒に二つの記念講演を行うこととした。一つは女性活躍推進に関する内容、もう一つは著名人による講演である。そして、記念式典・記念講演は、20人の理事と2人の監事、事務局が担当し、記念誌の制作は理事7人による広報委員会が推進することとした。

記念式典の企画・準備

記念式典では、会場確保が必須であるため、まずは式典の規模と



可児市SCは、令和4年10月6日に設立30周年記念式典・記念講演を開催(後援:可児市)。会場には、会員371人を含む約900人が来場して、盛会だった。

日時を決めた。規模は来場者数1000人程度とし、日程を令和4年10月6日に決定。それを実現する会場として、「可児市文化創造センターArea」の主劇場へ宇宙のホールを1年ほど前に予約した。コンサートなども行われる客席総数1019席のホールである。

記念式典・記念講演の具体的な内容は、理事会で方針を決めて、令和4年5月ごろから事務局で準備を進めた。事務局では、これからのセンターを担っていく若い職員を中心にして、企画の詳細や周知の仕方、申し込み方法などを決めていった。



設立30周年記念式典・記念講演は、チラシ(写真)等で参加を呼び掛けた

「市民が行ってみたいと思うイベントにするアイデアを、若い職員から出してもらいました。参加申し込みの方法についても、SNSの活用も踏まえて考えてもらいました」と、若い職員に任せたことに満足の表情。

7月には、開催周知のためのチラシなどの制作に取り掛かった。そして、7月25日発行の「シルバードより」で、会員に開催内容を知らせた。続いて、市の広報8月号に記念式典・記念講演の参加者募集の記事を掲載して、広く市民に呼び掛けた。

その後、チラシの新聞折り込みやポスティング、ポスターを公共施設やスーパーマーケット、ホームセンターなどに掲示してもらい、大々的に周知を行った。

3つの参加申し込み方法を設け、市民にチラシ等で周知

記念式典・記念講演への参加呼び掛けは、会員には、事務局がハ

ガキを作成し、地域班の連絡員を通じて全員に配布して、出欠の意思を確認。家族や友人を誘って来てもらいたいとの考えから、チケットの申し込みは1人4枚まで可能とした。

市民に対しては、3つの申し込み方法(①電話②スマートフォンで二次元コードまたはURLにアクセス③センター窓口)をチラシやポスターに記載して、参加を募った。その結果、申し込み者数は236人。市民には、センターから当日の「チケット兼お楽しみ抽選会引換券」を郵送した。

記念事業を推進した若手職員の宮川由紀さんは、「思ったよりも二次元コードやURLへのアクセスが多く、92人から申し込みがありました。この方法も取り入れておいて良かったと思います」と、振り返る。

最終的に、1177枚のチケットを事前配布した。内訳は、会員628枚、市民468枚の合計1

096枚。残り81枚は、来賓や関係各所への配布分である。

約900人が来場し盛会

「設立30周年記念式典・記念講演(後援…可児市)は、10月6日12時30分に開始し、第一部として、久野泰臣理事長のあいさつ、来賓祝辞、祝電披露を行った。

休憩を挟んで、14時から第2部の記念講演がスタート。

はじめに、愛知県SC連合会の伊藤容子理事が登壇し、「シルボンヌの花を咲かせましょう」女性会員拡大に向けて」と題して、センターの女性会員の活動の様子とこれからの活躍機会の創出、センターとSDGsの関係性などについて話した。

続いて、元NHKアナウンサーで、中京テレビの番組でコメントーターとして活躍した堀尾正明氏が登壇。「あなたが主役でまちが輝く」地域の底力のヒミツ」と題して、これまで取材に出掛けて印

第1部の記念式典は、12時30分から約1時間開催。久野泰臣理事長（写真）のあいさつで始まり、来賓祝辞、祝電披露を行った



第2部の記念講演を行った、愛知県SC連合会の伊藤容子理事。テーマは「シルボンヌの花を咲かせましよう」女性会員拡大に向けて」



記念講演後に行った「お楽しみ抽選会」



元NHKアナウンサーの堀尾正明氏は、「あなたが主役でまちが輝く」地域の底力のヒミツ」と題して、ユーモアを交えて記念講演を行った

象に残っている町の取り組みや、町づくりに活躍するシニアの話などをユーモアを交えて語り、会場から終始笑い声が絶えず、楽しい講演になった。

講演後は、お楽しみ抽選会を行い、チケットに書かれた番号が当選した人は、堀尾氏のサイン入り書籍、あるいは可児市の地域通貨「Kマネー」1万円分が、それぞれ30人にプレゼントされた。

また、参加者全員に記念品を配布した。「地域と共に30年」のコピーとチエブクロ、センター名をプリントした京都の老舗のせんべいである。当日来場できなかった会員にも後で配布した。

当日の来場者数は、会員371人、市民453人と来賓・関係者を合わせて約900人となり、盛大かつ和やかに閉会した。

イベント当日の取り組み

記念式典・記念講演とともに、司会進行は地元FM局でパーソナリ

ティーを務めるじゅんじゅん氏に依頼した。会場設営は、会場専任スタッフの力を借り、当日午前中から準備を行った。

当日は、理事・監事、地域班長（全17人）、職員13人中1人を事務所に残して12人が会場に集まり、誘導、受付、来賓応対、記念品の運搬・袋詰め作業などを手分けして行った。また、コロナ禍のため、検温、手指消毒の感染防止対策も徹底した。

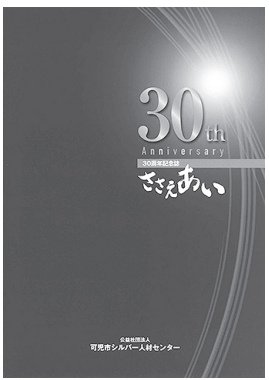
地域班は、日ごろから活動が活発で、地域班長は2か月ごとに会議を開いている。毎年、定時総会でも会場受付などを担当しており、今回も快く協力してくれた。

また、介護予防・日常生活支援総合事業に携わり、介護福祉士の資格を有する会員が救護係として会場に待機した。

一大イベントを終えて

例年、数百人規模の定時総会を開催してきたが、今回の記念式典・

広報委員会が中心になって制作した「30周年記念誌 ささえあい」



記念講演は、市民が来場することや記念事業として開催すること、コロナ禍での開催であることなどが従来と異なっていた。このため、事務局では6月から毎週担当職員会議を開いて進捗状況を確認し、課題があれば対策を話し合っており、フォローしていった。

そうした万全の準備のいかもであり、トラブルもなく円滑に進行することができた。

金家事務局長は「本当に人が集まるのか当日まで不安だったので、大勢の人たちに来場していただき、笑顔で会場を後にされた姿を見てほっとしました。理事、監事、地域班長、職員が協力して、よくや

つてくれました」と話した。職員は宮川さんは「人が集まる機会は久しぶりだったこともあり、来場者から「良かったよ、楽しかった」という感想をいただきました。みんなで集える機会が待ち遠しかったのだと思いました」と話すとともに、「このイベントが成功したことで、職員として新たな自信が持てた」とも語った。

通常業務と並行しての取り組みだったため負荷は大きかったが、事務局の方針として残業はしないことを徹底したという。また、取り組みを通じて、若い職員も「考えや意見などが言いやすい雰囲気になった」という効果を実感できているという。

30周年記念誌が完成

この記念式典・記念講演の様子を掲載した「30周年記念誌 ささえあい」(A4判・オールカラー40ページ)が、令和4年11月に完成。会員、関係各所に配布した。

広報委員会では「先人が努力し築いてきた30年の歩み」と、「コロナ禍などの困難な環境下でも頑張る会員の活動内容」を中心に取り上げるの方針を決め、地域班、職群班、親睦会・同好会の取り組みと会員の言葉や写真を紹介。どのページも、先人と会員への敬意と感謝が伝わってくる。また、年表や事業実績データも充実しており、資料としての活用価値も高い内容に仕上げた。

広報委員は編集会議を重ね、原稿の依頼、回収、編集など短い制作期間で集中して仕上げた。

金家事務局長は「良い記念誌が出来上がりました」と広報委員をたたえた。イベントについても「若い職員に委ねて良かった」と語る。センターでは、令和3年度まで力を入れてきた女性会員の増強の手応えが、現在、じわじわと表れているという。令和4年度には女性委員会を立ち上げ、発足直後に開催したシニア世代のメイク講座

事業運営状況 (平成29年度～令和3年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成29	618	333	951	2.9	711 (60,914)	74.8	4,625	283,967	23.0/77.0
30	609	328	937	2.8	748 (61,205)	79.8	4,322	286,818	23.6/76.4
令和元	584	320	904	2.7	726 (65,815)	80.3	4,260	285,487	23.1/76.9
2	558	308	866	2.5	675 (56,786)	77.9	3,587	267,845	24.7/75.3
3	533	314	847	2.5	657 (57,976)	77.6	3,836	275,514	26.5/73.5

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む

には、25人の市民も参加して盛況だった。

こうしたイベントを継続し、女性会員の活躍推進を図るとともに、さらなる発展を目指して、新たな一歩を踏み出している。

(増山美智子)